

## 名誉会員

### 真井耕象先生の御逝去を悼む

本学会名誉会員 北海道大学名誉教授 真井耕象先生は、平成12年2月16日心不全のため御逝去されました。享年98歳でした。

先生は明治34年3月3日、福岡県でお生まれになり、福岡修猷館、旧制第八高等学校を経て、大正14年3月九州帝国大学工学部土木工学科を御卒業後、直ちに北海道大学工学部に講師として赴任、助教授、教授を経て、昭和39年4月北海道大学を定年退官された。



この間先生は、鉄道工学第一講座を担当され、鉄道工学、土質力学、道路工学、都市計画学等を講じられた。当時は、たとえば土圧論は構造力学で、基礎工は施工法で講義されていたが、黎明期にあった地盤工学に関する関心の高まりの中で、昭和16年に、後に土質力学と改名された土性力学を開講された。我が国では最も早く地盤工学を体系的に講義されたお一人であった。

研究面では、寒冷地において多くの問題を引き起こしてきた泥炭の工学的性質、地盤の凍上現象等の研究を先駆的に開始された。その流れは、現在北海道内外で活躍する後継者によって引き継がれ、多くの成果が蓄積されている。

泥炭に関しては、広範な調査の実施とともに、原位置および室内試験法、泥炭地盤上における盛土施工法の研究をされた。

凍上に関しては、戦前から当時の鉄道省と共同して研究を進めておられ、その成果は軌道の建設・維持ばかりではなく、戦後急速に進展した道路建設に大きな貢献をなした。

先生の凍上現象についての論文は、「土と基礎」の創刊号を飾っている。

北海道の各地で頻発した地すべりの調査・研究にも力を注がれ、先生の知見と経験は、戦争中の乱掘によって荒廃した炭鉱地帯のずり山の災害対策にも生かされた。先生は、お育ちになった北九州の炭鉱地帯を思い出しておられたと拝察する。

北海道大学退官後、引き続き昭和46年3月まで、苫小牧工業高等専門学校の初代校長を勤められた。

学会、社会への御貢献も高く、日本学術会議会員として我が国の科学技術の進展に尽くされたほか、土質工学会、土木学会、日本雪氷学会、日本建設機械化協会、北海道土木技術会ほかの支部長、会長、評議員等を勤められた。なかでも、昭和31年1月に、国内で2番目の支部として発足した土質工学会北海道支部の設立は、先生の御尽力と先見性によるところが大きい。

北海道における産業と技術の振興のための審議会委員等での活動は、極めて幅広い分野にわたっておられる。

これらの御功績により、昭和46年 勲二等瑞宝章 を授与されたほか、地盤工学会功労章、紺綬褒章、日本雪氷学会功績賞等を受賞されている。

懇切な教育と優れた研究をすすめられ、円満な御人格で46年の長い間にわたって多くの人材を育成・薫陶された先生の御冥福を、心からお祈り申し上げます。

(土岐祥介 北海道工業大学教授 北海道大学名誉教授)  
社団法人 地盤工学会